

## ウラナミシジミの 冬季における生態について 浅田 卓

筆者は、2000年12月1日に淡路島において、多数のウラナミシジミの産卵行動を目撃したので報告する。場所は、北淡町野島常盤にある県立淡路景観園芸学校の校内で、当日は気温が18度と高く晴天であったため、所々でウラナミシジミのほかウラギンシジミ、ツマグロヒョウモン等の飛翔が確認された。中でも、校内敷地の法面に緑化目的で種子吹付が行われた「セイヨウミヤコグサ」の数株に、約20頭のウラナミシジミが群飛し、雌雄の追肥も観察された。個体はかなり汚損しており、ほとんど原型をとどめないギザギザで羽に鱗粉のないものまであったが、雌はセイヨウミヤコグサに止まっては産卵し、また飛ぶという行動を繰り返していた。花や実は全く無く、産卵場所は新鮮な葉の表側の縁であり、一卵ずつ産んでいた。しかし、個体数が多いため、小さな一枚の葉に4~5卵あるものも散見された。セイヨウミヤコグサは、校内敷地の各所にあるようだが、これだけ多くのウラナミシジミがいたのは1箇所しか確認できなかった。また、観察場所から約10mほど離れたところで葉がすべて被害されほとんど茎だけになったセイヨウミヤコグサが数株あった。しかし、既に幼虫、蛹等は見当たらず、ウラナミシジミの前世代なのか、何か他の種による被害なのかは不明である。

なお、室内で飼育した幼虫は3令の休眠中に死んだが、自然状態でこれらの個体が越冬できたのかどうかは未確認である。

北淡町野島常盤 県立淡路景観園芸学校内  
1.XII.2000 成虫多数目撃 産卵多数目撃



(ASADA TAKASHI  
神戸市垂水区西舞子7丁目16-2-108)

## 兵庫県北部における オオゴキブリの越冬について 浅田 卓

筆者は、2001年1月16日に大屋町において、越冬中のオオゴキブリを採集したので報告する。場所は、大屋町夏梅にあるヒノキ林の中で、尾根筋の枯死したヒノキ倒木の皮を剥いてみたところ越冬中のオオゴキブリ1♀を発見した。当日は、県北部に大雪注意報が発令中で、天候は晴れていたが、気温は0度と寒く、数日前からの降雪のため林内にも積雪があった。

採集した当初は、ヒノキの皮の隙間にも雪が氷の状態であり込んでいたため、オオゴキブリも死体と勘違いするほど硬く凍っていたが、フィルムケースに入れて持ち歩くうち、体温が上がって動き出し生きていたことに驚かされた。文献によると、オオゴキブリが分布する北限は新潟県となっているが、本来南方系の昆虫であることから、県北部の積雪地の中での越冬個体の発見はデータが少ないと思われるので報告する。なお、個体は神戸市の自宅で越冬し現在も飼育中である。

養父郡大屋町夏梅 16.I.2001 1ex.採集 浅田 卓  
(ASADA TAKASHI  
神戸市垂水区西舞子7丁目16-2-108)

## ヒメアカタテハの食草オオオナモミ 近藤 伸一

ヒメアカタテハがオオオナモミを食草としていることが確認できた。

1999年秋、兵庫県下のブタクサハムシの分布調査時、淡路島の土取り跡地と加古川河川敷でオオオナモミの葉からヒメアカタテハの幼虫を採集した。数千枚のオオオナモミの葉を調べてわずかに2例を確認したに過ぎず、オオオナモミが広くヒメアカタテハの食草になっているかどうかは不明であるが、オオオナモミで飼育した結果、順調に成長して2匹とも通常の大きさの蛹になり、うち1頭が羽化した。採集記録

兵庫県北淡町江崎 若齢幼虫採集 18-X-1999  
21-XI-1999 死亡確認  
兵庫県加古川市 中齢幼虫採集 24-X-1999  
21-XI-1999 1♂羽化  
(KONDO SHINICHI 神戸市西区岩岡町岩岡619-57)